

**編 集
後 記**

冷房装置等の普及により、今年の東京の夏の電力消費型態は先進国型となったと新聞が伝える盛暑、皆様御健勝のことと存じます。学会誌も早いもので、本号で今年に入ってから8冊目を皆様の御手許に御届けすることとなりました。本号は、先月号に続いて北海道大会の特集号として発刊することとなり、特に年次学術講演会の記事を中心に編集してみました。年次学術講演会の発表論文数は、年を追って増加の傾向にあります。このことは素直によるべきことかも知れませんが、また反面本来の講演会の姿からみた場合少なからず問題を含んでいるようでもあります。何はともあれ、600件を越す本年の発表論文は今日のわが国の土木技術の水準を示す一つの尺度でもありますので、特にこの種の<研究>から日頃遠ざかり気味の会員の方に熟読をおすすめしたいものです。

通常、学会誌は一般投稿原稿、依頼原稿、その他の記事から成っておりますが、どのような編集方法がとられているか、意外に知られていないようですので、会誌により親しみを覚えていただくために、ここに記してみよう。この種の学術雑誌は、市販の雑誌等とは異なっ

た編集方法がとられています。すなわち編集委員会が組織されて、その委員会が編集をする方法です。2ヵ月に一回開催される本委員会の席上で、当面する大きな問題、すなわち編集方針、特集計画、会員からの声等が討議され、あわせて投稿原稿の審査、その他の作業がなされます。そして、毎月上旬に開催される編集小委員会が、本委員会の指示のもとに翌々月号の会誌の編集、すなわち登載論文の決定、配列、他の委員会から回付されてくる原稿の調整、その他を決めてゆく方法をとります。実際の作業は事務局が担当するものの、会誌編集委員会は学会の中の委員会の中でも、多忙をきわめる委員会として有名で、歴代の委員長はその任期が満了すると白髪が増えるという伝説があるほどです。

会誌編集委員会は、何よりも会員各位の技術向上を第一と考えておりますが、何分にもこの広い階層の2万余人の皆様のすべてに御満足をいただけることは困難ともいえる難事です。より建設的な忌憚なき御意見を御寄せ下さることを御願い申し上げます。また、皆様からの生の御意見が、編集を担当する者の大きなはげみともなります。

【編集子】

会 員 の 入 退 会 に つ い て (昭和 41.6.1~6.30)

入 会	369 名	(正 143 学 225 特 1.A 1)
復 活	5 名	(正 4 学 1)
退 会	250 名	(正 64 学 184 特 1.B 1 特 1.C 1)
死 亡	4 名	(名誉 1 正 3)
転 格	14 名	学 → 正 11 正 → 学 3

特 別 会 員 の 入 退 会

○入 会	昭和 41.6.15	特 1.A	K K 水 野 組	東京都港区芝西久保桜川町 1
○退 会	昭和 41.6.13	特 1.B	村 上 建 設 K K	東京都千代田区九段 4-6
	" 41.6.2	特 1.C	田 島 工 業 K K	富山市中島 6 番地

会 員 現 在 数 (昭和 41.6.30 現在)

名誉	正会員	学生会員	賛助	特級	特 1.A	特 1.B	特 1.C	特 1.D	特 2	合 計	(増)
61	18 554	3 589	30	19	16	50	201	317	51	22 888	(120)

名誉会員	近 藤 博 夫 君	大阪港振興協会名誉会長	昭和 41.6.27	死 去	77 才
正 会 員	馬 場 宗 光 君	東観光開発KK取締役会長	" 41.6.11	"	68 才
"	遠 山 幸 三 君	KK田原製作所	" 40.9	"	62 才
"	大 神 啓 次 郎 君		" 41.6.11	"	62 才

昭和 41 年 8 月 10 日印刷

昭和 41 年 8 月 15 日発行

土木学会誌 第 51 卷 第 8 号

印 刷 者 大 沼 正 吉 印 刷 所 株 式 会 社 技 報 堂

東 京 都 港 区 赤 坂 1-3-6

口 絵 製 版 印 刷 者 若 林 孟 夫 口 絵 写 真 印 刷 所 若 林 原 色 写 真 工 芸 社

東 京 都 港 区 芝 金 杉 川 口 町 20 番 地

発 行 者 羽 田 巖 発 行 所 社 団 法 人 土 木 学 会

東 京 都 新 宿 区 四 谷 一 丁 目

定 価 250 円 (送料 20 円)

振 替 東 京 16828 番

電 話 (351)5130 (編集直通)・5138・5189 番